

事務所建設に伴う埋蔵文化財発掘調査業務

# 西原遺跡

—— 第7次発掘調査報告書 ——

令和3年9月

郡山市教育委員会



## 序 文

郡山市は、福島県のほぼ中央に位置し、豊かな自然に恵まれ、その地理的特徴から、原始・古代より交通の結節点として東西南北から、さまざまな地域の文化が集まり、それらを礎として多様な文化が形成されてきました。

文化財は、地域の歴史や文化を理解する上で欠くことのできないものであり、地域文化の向上・発展の基礎となるものであることから、これを保存し、次世代に継承していくことは極めて大切なことであります。

特に、埋蔵文化財は大地に刻まれた地域の歴史そのものです。郡山市教育委員会では、本市の歴史や文化を解明する貴重な財産である埋蔵文化財を後世に遺し、継承していくことが現代に生きる私たちの大きな責務であるとの認識のもと、埋蔵文化財の保存と活用に努めているところであります。

この度、事務所建築工事に伴い、事業区域内に所在する「西原遺跡」の記録保存のために発掘調査を実施いたしました。

本書は、その成果を周知し、活用できるように後世に残す記録としてまとめたものであります。今後、地域の歴史解明の基礎資料や研究資料として、広く皆様に活用していただきますとともに、埋蔵文化財の保存と活用について御理解をなお一層深めていただければ幸いです。

結びに、発掘調査実施から報告書作成にあたり、御尽力を賜りましたライフ事業協同組合をはじめとする関係各位に敬意を表しますとともに、心から感謝を申し上げ序文といたします。

令和3年9月

福島県郡山市教育委員会  
教育長 小野 義明



## 調 査 要 項

遺跡名(次数)	西原遺跡 にしはらいせき (第7次)
所 在 地	福島県郡山市富久山町福原字西原
契約期間	令和3年5月24日～令和3年9月30日
発掘調査期間	令和3年5月24日～令和3年6月7日
発掘調査面積	118㎡
調査委託者	ライフ事業協同組合 (代表理事 塩田純人)
調査受託者	郡山市 (市長 品川萬里)
調査主体者	郡山市教育委員会 (教育長 小野義明)
調査担当者	公益財団法人郡山市文化・学び振興公社 (代表理事 山本晃史)
主任技術者	垣内和孝 (公益財団法人郡山市文化・学び振興公社文化財調査研究センター所長)
調 査 員	垣内 石澤夏巳 (公益財団法人郡山市文化・学び振興公社文化財調査研究センター主事)
調査補助員	橋本明子 (公益財団法人郡山市文化・学び振興公社文化財調査研究センター臨時職員)
発掘調査従事者	垣内 石澤 橋本 宇佐見栄子 塚原譲 吉田イチ子
整理報告従事者	垣内 石澤 橋本

## 例 言

1. 本書は、福島県郡山市富久山町福原に所在する西原遺跡の記録保存を目的とした発掘調査の報告書である。
2. 発掘調査および整理報告に関わるすべての費用はライフ事業協同組合が負担した。
3. 本書は、公益財団法人郡山市文化・学び振興公社文化財調査研究センターが編集し、郡山市教育委員会が発行した。
4. 本書の執筆は、1を郡山市文化振興課の荒木麻衣、2～5を垣内が行なった。
5. 遺構図・遺物図の作成および写真撮影は、垣内・石澤・橋本が行なった。
6. 本書第1図では基図として国土地理院発行1/25,000地形図「郡山」「三春」を使用した。
7. 本書第2図では基図として1/2,500県中都市計画図を使用した。
8. 発掘調査に伴う表土等の除去は重機を使用し、業務は株式会社市川建設へ委託した。
9. 座標値は世界測地系平面直角座標第IX系を使用した。
10. 調査に関わる記録・資料および出土遺物は郡山市教育委員会の保管である。

# 目 次

序 文

調査要項

例 言

目 次

1. 調査に至る経過	1
2. 調査経過	1
3. 調査概要	3
4. 遺 構	7
5. 遺 物	12

参考文献

報告書抄録

## 1. 調査に至る経過

令和3年5月、郡山市富久山町福原字西原地内で事務所建設の計画があったことから、郡山市文化振興課に埋蔵文化財包蔵地の照会があった。

事業地は、平成12年4月21日に試掘調査を実施した範囲の一部であった。調査は、調査対象面積2,023㎡に、トレンチを5本設定し、調査面積81.7㎡で実施した。結果、現表土面から40cmから80cmの深さで、堅穴住居跡や土坑・溝跡・ピットなどを検出し、土師器や須恵器が出土した。そのため、開発区域の2,023㎡を要保存範囲と判断している。

西原遺跡の所在を回答すると共に、事業地の埋蔵文化財の保護・保存について、協議が持たれ、工法変更等による現状保存が困難であると結論に達し、記録保存を目的とする発掘調査を実施することで合意に達し、遺跡の保存が不可能となる事務所建設範囲118㎡の発掘調査を実施することとした。

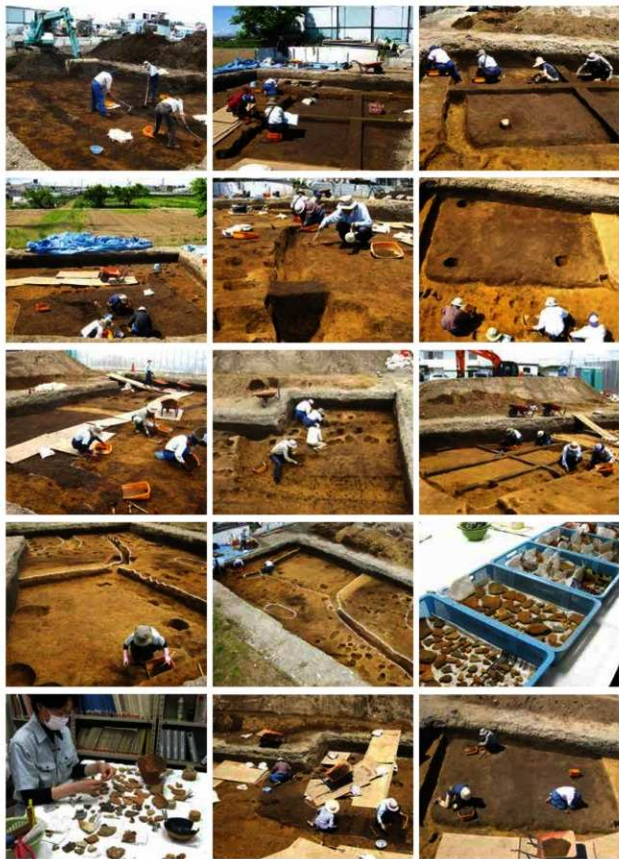
これを受けて、西原遺跡第7次調査及び発掘調査報告書作成において、令和3年5月14日付けでライブ事業協同組合と郡山市との間で委託契約が、令和3年5月21日付けで郡山市と公益財団法人郡山市文化・学び振興公社との間で委託契約がそれぞれ締結された。

## 2. 調査経過

郡山市との委託契約を受けて、令和3年5月24日に発掘調査を開始した。表土の除去は重機を使用し、排土は調査区の隣接地に仮置きした。併せて同日に、座標およびベンチマークの移動を行なった。調査区内の層序は、表土・盛土=LⅠ、黒色土=LⅡ、黄褐色土（ローム質）=LⅢと設定した。LⅡとした黒色土は、標高の低い調査区の東側部分のみ薄く堆積しており、近接する既往の発掘調査区では古代の遺物を包含する層であるが、今回の調査区では耕作に伴う攪乱がLⅡ中に広く及んでおり、包含する遺物も確認できなかったことから、表土と併せて重機で除去した。

表土除去が終了した範囲から人力による遺構検出作業を開始した。確認できた遺構は、堅穴建物が1棟、ピットが1基、土坑が2基、溝が1条であった。遺構の掘込みは、堆積土層の観察ができるように半載法や四分法を基本として人力で行なった。遺構の図化は原則として20分の1の縮尺で行ない、写真の撮影はデジタルカメラとカラーリバーサルフィルムでの撮影を併用した。6月3日までには遺構の掘込みを終了して、週明けの7日には調査区の全景写真を撮影し、作図途中であった遺構図を完成させて発掘調査を終了した。調査区の埋戻しは、事業者所有の重機で実施することが契約段階で定まっていたため行わず、発掘調査終了の状態のまま現場を引き渡した。

整理報告作業は、発掘調査の終了後から本格的に始めた。遺物の図化は原寸で行ない、写真撮影はデジタルカメラを使用した。7月8日までには整理報告に伴う作業がおおむね終了し、翌9日には原稿を印刷会社へ入稿した。その後、出土遺物や記録類を収蔵施設で保管しやすい状態に整え、報告書の校正を順次進め、9月中には報告書の印刷が完了して全ての業務を終了した。



作業風景



### 3. 調査概要

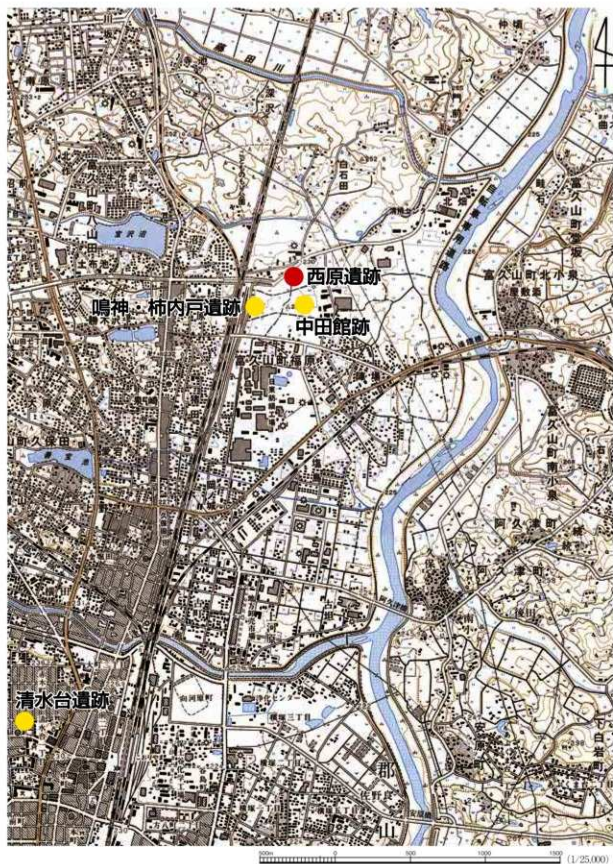
福島県郡山市富久山町福原に所在する西原遺跡は、西方から東方に緩やかに傾斜する微高地に広がる。隣接する鳴神・柿内戸遺跡や中田館跡とは、遺跡地図の類いで別遺跡として登録されているが、各遺跡を隔てる明確な自然障壁は存在せず、発掘調査によって確認できた遺構の様相も連続的である。よってこれらの遺跡は、同一の集落を構成する一連の遺跡として把握すべき存在と思われる。

西原遺跡は今回の発掘調査が第7次調査となり、鳴神・柿内戸遺跡は第5次調査、中田館跡は第1次調査まで実施されている。調査の結果、縄文時代から平安時代におよぶ遺構・遺物が見つかった。遺跡の中心となるのは、奈良・平安時代の集落である。集落の盛期は、奈良時代から平安時代前期までの8～9世紀にあり、平安時代中期の10世紀には縮小に転じ、11世紀中葉を最後に遺構が確認できなくなる。集落の規模が大きく、継続期間が長期におよぶことなどから、地域の拠点となる集落であったと考えられる。集落を構成する竪穴建物や掘立柱建物は、ある程度まとまって群を形成しながら散在し、上記の各遺跡に囲まれた低地を共有していたようである。遺跡の南方約3kmの場所には、古代安積郡の郡役所と想定されている清水台遺跡がある。

今回の西原遺跡第7次調査では、奈良時代の竪穴建物が1棟、平安時代のピットが1基と溝が1条、時期不明の土坑が2基見つかった。平安時代のピットは、掘立柱建物の柱穴になると思われる。同じく溝は、L字状に屈曲した部分が確認されており、平面が方形基調となる区画の南西隅の可能性がある。



第7次調査区



第1図 遺跡の位置





第3図 西原遺跡および周辺遺跡の奈良・平安時代堅穴建物・掘立柱建物の分布状況

## 4. 遺 構

確認できた遺構は、竪穴建物が1棟、ピットが1基、土坑が2基、溝が1条である。遺構の番号は、第1次調査からの連番である。以下、各遺構の調査所見を報告する。

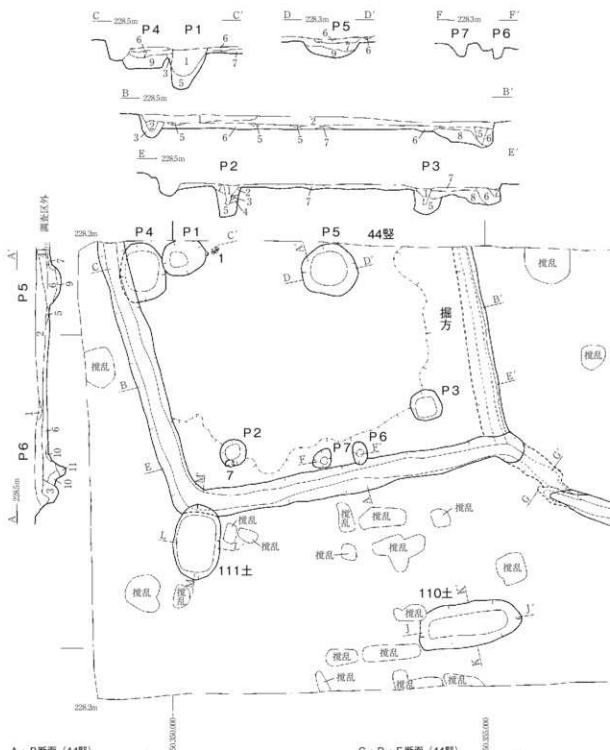
**44号竪穴建物** 調査区の西側で確認した奈良時代の竪穴建物である。111号土坑と重複関係にあり、平面・断面観察により44号竪穴建物の方が古いと判断した。竪穴の北辺は調査区外のため未調査である。この北辺部分に竈が設けられていたようである。全面に貼床が施されており、その上面と下面に合わせて2面の生活面が確認できた。断面図の⑤・⑥が貼床層である。P1～3は柱穴とみられ、いずれも最終的に柱が抜き取られたようである。貼床層は柱穴の掘方を覆っており、貼床上面では柱痕の部分のみが確認できる状況であった。P6・7は、想定される竈の対面に位置しており、竪穴の出入り口に関わる梯子などの痕跡の可能性がある。竪穴の南辺・東辺を中心に、古い段階の床よりも深く掘削された竪穴掘方が認められた。古い段階では竪穴の東・南・西の3辺で壁溝が開口していたが、新しい段階では貼床の形成に際して東辺の壁溝が埋められたようである。壁溝は排水を主目的としたとみられ、竪穴外に伸びる排水溝と接続する。両者の接続部はトンネル状に掘削され、この部分に上屋の屋根が葺き下ろされていたと考えられる。トンネル部分の掘削は、竪穴の内外双方からなされたように見え、掘削の方向がずれている様子が観察できた。竪穴外の排水溝の底面には、鋤によるとみられる掘削痕が明瞭に認められた。また、同じくその一部が、他の部分と比べて極端に深く掘削されている場所があった。

**75号ピット** 調査区北東側で確認した平安時代のピットであり、柱穴の可能性がある。西側半分ほどが調査区外のため未調査である。方形を基調とした平面を呈し、壁は急角度に立ち上がる。平面・断面ともに柱痕は確認できなかったが、その形状から柱穴の可能性がある。75号ピットの東側および南側には、これと組み合わせる柱穴が認められないため、掘立柱建物を構成する柱穴だとすれば、南東隅部の柱穴となる。ほぼ完全な状態の土師器杯（第5図8）が①底面付近から出土しており、意図的に埋設された可能性がある。75号ピットが掘立柱建物の南東隅部の柱穴だとすれば、遺構そのものの直接的な重複はないものの、6号溝とは重複する関係になる。

**110号土坑** 調査区南西側で確認した時期・性格ともに不明の土坑である。平面は東西に長い楕円状で、縄文時代の狩猟用の落とし穴ではないかと想定して調査を開始したが、深さがごく浅く、壁の立ち上がりが緩やかなことから、落とし穴ではないと判断した。人為的な掘り込みではなく、自然の窪みなどといった可能性もある。

**111号土坑** 調査区南西側で確認した時期・性格ともに不明の土坑である。44号竪穴建物と重複関係にあり、平面・断面観察により111号土坑の方が新しいと判断した。平面は南北に長い楕円状で、壁の立ち上がりは比較的急である。

**6号溝** 調査区東側で確認した平安時代の溝である。確認した部分の中ほどで屈曲しており、方形を基調とした区画の南西隅部の可能性がある。壁の立ち上がりは比較的緩やかで、しっかりと掘り込まれている。75号ピットが掘立柱建物の南東隅部の柱穴だとすれば、遺構そのものの直接的な重複はないものの、6号溝とは重複する関係になる。



**A・B断面 (44壁)**

1. 暗褐色土 (ロームブロック含む。)
2. 暗褐色土 (微量の焼土粒含む。)
3. 暗黄褐色土 (多量のローム粒含む。)
4. 暗褐色土 (多量の焼土粒、少量の木炭粒・粘土粒含む。)
5. 黄褐色土 (多量のロームブロック含む、しまりあり。)
6. 暗褐色土 (ロームブロック含む、しまりあり。)
7. 黄褐色土 (多量のロームブロック・焼土粒・木炭粒含む、しまりあり。)
8. 黄褐色土 (多量のロームブロック含む、しまりあり。壁穴上方。)
9. 暗黄褐色土 (多量のロームブロック、少量の焼土粒・木炭粒含む。P5。)
10. 暗黄褐色土 (多量のロームブロック含む。P6。)
11. 暗褐色土 (ローム粒含む。P6。)

**第4図 遺構平面・断面**

**C・D・E断面 (44壁)**

1. 暗褐色土 (しまり弱い。P1~3。)
2. 暗黄褐色土 (ローム粒含む。P1~3。)
3. 黄褐色土 (ローム質。P1~3。)
4. 暗褐色土 (ローム粒含む。P1~3。)
5. 黄褐色土 (多量のローム粒含む、しまり弱い。P1~3。)
6. 黄褐色土 (A・B断面 #5と同じ。)
7. 暗褐色土 (A・B断面 #6と同じ。)
8. 黄褐色土 (A・B断面 #8と同じ。壁穴上方。)
9. 暗黄褐色土 (A・B断面 #9と同じ。P4・5。)







44号竖穴建物



44号竖穴建物贴床除去後



44号竖穴建物P 2断面・第5图7出土状况



44号竖穴建物P 3断面



44号竖穴建物P 4断面



44号竖穴建物P 5断面



44号竖穴建物第5图1出土状况



44号竖穴建物排水沟底面锄痕跡





44号竪穴建物排水溝トンネル部断面



44号竪穴建物排水溝断面



75号ピット断面



75号ピット第5図8出土状況



110号土坑



111号土坑



6号溝



6号溝断面

## 5. 遺物

奈良・平安時代の土師器と須恵器が出土した。遺構外からも若干の遺物が出土したが、ほとんどは遺構内からの出土である。以下、出土した遺物の特徴や出土状況を、遺構ごとに報告する。

**44号竪穴建物** 最も多くの遺物が出土した。そのうちの7点を図示した。1の土師器坏は、柱穴であるP1脇の床から出土した。ロクロを用いて成形され、底部外面に静止糸切痕が明瞭に認められる。内外面ともにヘラミガキと黒色処理が施されている。2～4の土師器甕は、いずれもロクロを用いておらず、2の底部外面には木葉痕が認められる。5・6は須恵器坏、7は須恵器長頸瓶とみられる。以上の他、P4と貼床から凝灰岩の小塊が出土した。砥石に加工可能な石材であり、切断したような面を持つ。未製品の可能性があり、図示はしなかったが写真のみ掲載した。

**75号ピット** 図示したのは8と9の2点の土師器坏である。いずれもロクロを使用している。44号竪穴建物出土の個体と比較し、底径が小さく、体部の立ち上がりが曲線的なのが特徴である。8は、 $\varnothing 1$ 底面付近からはほぼ完全な状態で出土した。底部外面には回転糸切痕が明瞭に認められ、体部下端も合わせて再調整は施されていない。このほかに土師器の細片が少量出土したが、須恵器は含まない。

**110号土坑** 遺物は出土しなかった。

**111号土坑** 土師器・須恵器の破片が5点出土したが、すべて細片のため図示しなかった。

**6号溝** 土師器・須恵器の破片が少量出土したが、いずれも細片のため図示しなかった。器形の判断できる個体として、ロクロ使用の土師器坏、外面に平行叩き目のある須恵器甕の胴部、大戸産の長頸瓶とみられる須恵器がある。



44号竪穴出土土師器坏 (第5図1)



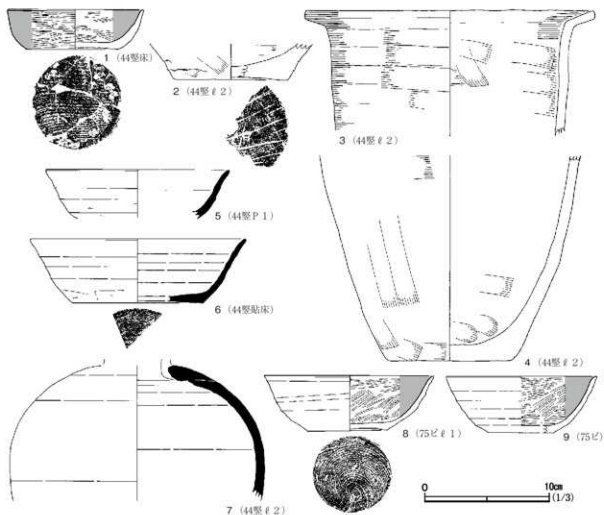
75号ピット出土土師器坏 (第5図8)



44号竪穴建物出土須恵器長頸瓶 (第5図7)



44号竪穴建物出土凝灰岩石材



第5図 出土遺物

参考文献

- 福島県教育庁文化課編「東北新幹線関連遺跡発掘調査報告Ⅴ」福島県教育委員会  
 郡山市教育委員会編「埋蔵文化財発掘調査概報 昭和55年度」郡山市教育委員会  
 郡山市教育委員会編「郡山市埋蔵文化財分布調査報告8」郡山市教育委員会  
 郡山市埋蔵文化財発掘調査事業団編「内環状線関連遺跡発掘調査概報Ⅱ」郡山市教育委員会  
 郡山市埋蔵文化財発掘調査事業団編「鳴神・柿内戸遺跡 第3次調査報告」郡山市教育委員会  
 郡山市文化・学び振興公社編「西原遺跡 第2次・第3次発掘調査報告」郡山市教育委員会  
 郡山市文化・学び振興公社編「西原遺跡 第4次発掘調査報告」郡山市教育委員会  
 郡山市文化・学び振興公社編「西原遺跡 第5次発掘調査報告」郡山市教育委員会  
 郡山市文化・学び振興公社編「西原遺跡 第6次発掘調査報告」郡山市教育委員会  
 郡山市文化・学び振興公社編「鳴神・柿内戸遺跡（第4次）鳴神・柿内戸遺跡（第5次）中田館跡」  
 郡山市教育委員会

## 報 告 書 抄 録

書名	事務所建設に伴う埋蔵文化財発掘調査業務 西原遺跡 第7次発掘調査報告書							
編著者	垣内和孝 荒木麻衣							
編集機関	公益財団法人郡山市文化・学び振興公社 文化財調査研究センター							
所在地	〒963-0541 福島県郡山市喜久田町堀之内字畑田23番地					In. 024 (959) 3305		
発行機関	郡山市教育委員会							
所在地	〒963-8601 福島県郡山市朝日一丁目23番7号					In. 024 (924) 2661		
発行年月日	令和3年(2021)9月30日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡					
西原遺跡 (第7次)	福島県郡山市富久山町福原 字西原	2036	199	37° 25' 35"	140° 24' 8"	20210524 - 20210607	118	事務所建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
西原遺跡 (第7次)	集落	奈良・平安	堅穴建物・ピット・ 土坑・溝	土師器・須恵器				
要約	奈良・平安時代集落の一面を確認した。							

事務所建設に伴う埋蔵文化財発掘調査業務

### 西原遺跡

— 第7次発掘調査報告書 —

令和3年(2021)9月30日

**編 集** 公益財団法人郡山市文化・学び振興公社  
文化財調査研究センター  
〒963-0541 福島県郡山市喜久田町堀之内字畑田23番地

**発 行** 郡山市教育委員会  
〒963-8601 福島県郡山市朝日一丁目23番7号

**印 刷** 石井電算印刷株式会社  
〒963-0724 福島県郡山市田村町上行合字南川田37-2